□ 日 時： 令和5年9月22日（金） 14時00分～15時30分

□ 場 所： 草津市役所 8階大会議室

□ 出席委員： 8名

一般社団法人 草津栗東医師会、草津市まちづくり協議会連合会、草津商工会議所、
草津市民生委員児童委員協議会、滋賀いのちの電話、自死遺族の会 凧の会、
社会医療法人 誠光会 淡海医療センター、社会福祉法人 草津市社会福祉協議会

□ 事務局：

健康福祉部：松尾副部長

健康増進課：上野副係長、柴田保健師、竹本保健師

1. 挨拶

【副部長挨拶】

委員の皆様におかれましては、本日は御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から本市の保健衛生行政に多大なる御支援と御協力をいただき、この場をお借り致しまして、厚くお礼申し上げます。先般、第1回目の当推進会議では、計画の策定に向けて広くご意見を頂戴し、ありがとうございました。皆様から頂きました意見をもとに、本日は、第3次草津市自殺対策行動計画の素案としてお示しさせていただき、計画の内容についてご審議いただくところでございます。限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

<草津市附属機関運営規則に基づき、本協議会が成立していることを報告>

2. 協議事項 第3次草津市自殺対策行動計画（案）の素案について

<説明> 資料1、資料2、参考資料1に基づき事務局より説明

<協議>

【委員長】基本方針1「自殺の実態を明らかにします」に関連する評価指標を「大学や企業との情報交換による実態把握・分析の回数：年1回以上」とした理由について説明願いたい。

【事務局】数値に関しては国の統計データや市で把握するデータで把握することができるが、自殺の背景等、実態に即した計画の推進に向けては、市が把握する情報だけでは十分でなく、若い世代や働き世代に関わる大学や企業等、関係機関との情報交換が必要と考え、設定した。

【委員長】情報交換に向けたパイプはあるか。

【事務局】立命館大学とは以前より情報交換の機会を何度か持たせていただいている。今年度も、計画策定にあたり、実態把握のため意見交換を行った。企業に関しては、健康づくり推進協議会の委員である草津・栗東地区労働者福祉協議会の方を通じて情報交換をさせていただいた。

【委員長】実行に向けた見通しがあり、これでよい。

次に基本施策2「健やかなところをはぐくむ」と、基本施策3「一人ひとりの気づきと見守りによる孤立しない地域づくりを行う」について、意見等あるか。

【副委員長】第1回本会議後、まちづくり協議会連合会の会長会で、自殺の実態について事務局より説明いた

いた。14 学区の会長が集まる会長会において、自殺対策に関する認識を高めるために説明いただいたが、初めての試みで正直反応は少なかった。今後も、自殺に関する事項について、私から話をできたらと考えている。事務局には、それに伴う資料を提供いただきたい。

【事務局】今後も提供できる資料についてはお渡しさせていただく。色々な方が自殺対策について語っていただける機会を広げていきたい。

【委員長】まちづくり協議会連合会の会長会での反応はどのようなだったか。

【副委員長】意見がなかった。今後は私から質問をしてみたいと考えている。

【委員長】こころの健康づくり、メンタルヘルスの推進という表現にはどうか。

【副委員長】まちづくり協議会連合会の各会長には自殺対策について知っていてほしい。下部の方々に広める際にはそのような言葉を用いたい。

【事務局】自殺対策が地域づくりと深く関連があることについて、14 学区の会長様には是非ご認識いただきたい。副委員長からのご意見はとてもありがたく、引き続き連携させていただきたい。

【副委員長】14 学区の下に町内会がある。町内会長は地域のことを一番ご存知であり、より気づきやすい立場であると思うので、そちらにも徐々に浸透していきたい。まずはまちづくり協議会会長に認識していただくことからスタートしたい。

【委員長】資料 2 の基本施策 2 「健やかなこころをはぐくむ」について事務局から説明いただきたい。

【事務局】こころの健康づくりについての啓発として掲載の事業を、職場におけるこころの健康づくりとして企業への働きかけに関する事業を挙げている。また、こころの健康については、社会参加やいきがづくりとの関連が深く、挙げさせていただいた。健康増進課だけでなく、様々な関係課における取組により施策を推進して参りたい。

【委員長】基本方針 2 に関連する評価指標が 2 つともゲートキーパーに関する内容だが、「こころの健康づくりを推進する」ことがメインであるため、基本施策 2 「健やかなこころをはぐくむ」の内容を掲げることとはできるか。

【事務局】現行計画において、ゲートキーパーに関する数値目標が十分に達成できておらず、改めて評価指標に設定し、推進していきたいと考えた。頂戴した意見を踏まえ、評価指標について検討して参りたい。

【委員長】他に意見はあるか。

【委員】基本施策 2 や基本施策 3 については、草津市社会福祉協議会の活動の要素であると思う。根本には人と人のつながりがある。最近では、つながりが少ない傾向が見受けられる。世代間の違いも目立ってきている。町会長や各種団体の足腰が弱まってきていると感じる。そのような背景がある中、乳幼児を抱えたお母さんから小学生、特に、30代から50代の一番社会的な活動を活発にされている方に対するアクションは、参画する方が非常に少なく、難しい状況がある。高齢者に対しては、民生委員と手を取り合い、つながりを密にしていく活動をしていきたい。常盤学区は高齢化が進展している。地域には、自ら死を選ぶ、医療機関を受診しない孤独死の方もいる。現場ではそういった状況があり、危機感を持っている。

【委員長】職場におけるこころの健康づくりについてはどうか。

【委員】継続的に企業訪問をしている。自殺という言葉を明らかに使うわけではなく、人権という側面から支えることができるのではないかと考える。

【委員長】従業員 50 人以下の小規模事業所は多いか。50 人以下に事業所には産業医の手が届かないことが多いため、商工会議所のほうが手は届きやすいかもしれない。

基本施策 3 「一人ひとりの気づきと見守りによる孤立しない地域づくりを行う」について意見等あるか。

【委員】草津市はゲートキーパー養成に以前から力を入れているイメージだったが、資料 2 の 18 ページ「ゲ

ートキーパー」の言葉や言葉の意味を知っているかという質問に、「知らない」割合が8割ある。「言葉は知っているが意味は知らない」を合わせると、9割近い。市民向けに一生懸命研修をしている中でも、まだほとんどの方がご存知ないことに驚いたが、17ページにある「相談しても解決できないと思っているから」が半数以上を占めており、一番表に出しにくい自分の心の内を相談することにまだまだ抵抗感がある方が沢山おられることが理由の一つと考えられる。その壁を取り除くような活動をしていただくのが最初だと思う。

【事務局】 近年は、コロナ禍の要因もあり、市民を対象としたゲートキーパー養成研修において、参加者が集まりにくかった。研修を受講いただくと、「とても勉強になった」、「対応の仕方がわかった」というご意見を頂戴する。No23「ゲートキーパー養成研修の動画配信」は、市の公式YouTubeでゲートキーパーに関する動画を配信し、市民の方々の目に触れる機会を作った。また、今年度の市民向けの研修については、Zoomでも受講できるように工夫した。より多くの市民がゲートキーパーとして活動できるように、今後も検討を重ねていく必要があると考えている。No23「ゲートキーパー養成の方法に関する検討・実施」については、さらに検討を重ね実施に向けて進めていくというものである。

【委員長】 ゲートキーパーや自殺という敷居が高くなるのか。

【副委員長】 募集するというのと、こちらから出向いて強制的に教えるという場面があるのもいいのではないか。どういう立場の人にゲートキーパー養成するのかを考えてみるのはどうか。

【事務局】 受講申し込いただくのは本当に興味をお持ちの方となる。既存で集まる機会等に少し時間をいただく等、展開していきたい。

【委員】 出前講座をするとよいのではないか。15分だけでも話させてもらいたい等。言葉自体も知らないことになるため、行って説明する等しないと、相手はわからない。

【委員長】 他に意見等あるか。

【委員】 地域における孤立化防止の取組が様々あると思う。ソーシャルワーカーは、自殺未遂を繰り返す方と関わることが多い。フォーマルな社会資源は知っているものの、インフォーマルな社会資源については疎い。どこでどのようなことが行われているのかがわからない。行動計画のもっと具体的な案として、そういった情報が見えるとよい。

【委員長】 情報にアクセスしやすい方法は何かないか。

【事務局】 人とくらしのサポートセンターでは、生活支援体制整備事業を行っており、社会資源の情報を一定把握している。市社会福祉協議会に学区ごとに生活支援コーディネーターがおり、社会資源の情報等を把握されており、そういった先に繋ぐことはできる。

【委員長】 ホームページを見たりどこかにアクセスしたりすれば情報は入るか。

【事務局】 様々な資源や活動の見える化に向けて、マップ化しようという動きがある。現在は、関係者同士で情報を集めているところで、いずれは市民に情報を見てもらえるように進めていきたい。

【委員長】 患者の個別性に合ったサービスや社会資源があればよいと考えるものの、情報が収集できず、どこに相談するとよいかわからないことがある。アクセスしやすいプラットフォームを作っていただきたい。次に基本施策4「子ども・若者の自殺対策を推進する」について意見をいただきたい。学校への取り組みについて、学校の先生や教育委員会と取り組んでいることはあるか。

【事務局】 教育委員会より、新たに、No55、No56、No60の事業を挙げられた。今年度から開始する事業や、既存の事業ではあるが自殺対策を推進するものとして今回から挙げられた事業である。小中高生の自殺者数が令和4年に全国としても過去最多を示しており、国を上げて子どもの自殺対策の推進が求められている。No55「児童生徒の心と体の健康観察推進」は、タブレットでの心身の健康チェックであり、この事業を通して、児童生徒の不調を把握した際には必要時サポート等をつなげていく。第1回本会議において、子どもも保護者も、気軽に話せる機会が必要であるとの意見を頂戴したが、No56は

保護者が集える機会の重要性について共有させていただき、事業掲載となった。

【委員】 保育園、小学校、高校、また、県立や私立等、所管が異なるが、どのように連携し、どのような効果があり、今後どう強化していくのか。

【事務局】 個別のケースに関しては児童生徒支援課等と連携している。こころの健康づくりの啓発や相談窓口の周知に向けて、教育委員会以外に、近隣の高校や大学にも配布等の依頼を行っている。昨年度、市内のある中学校の教職員に向けて、ゲートキーパーとしての役割や自殺対策の取組みをより理解していただくために、研修会を実施した。次期計画においては、新たに、No60「生徒指導主事・主任会における自殺予防教育に関する研修の実施等」を挙げられている。

【委員】 いのちの電話に未成年が電話をかけてくる状況が増えてきている。いのちの電話では、傾聴を行い、ケースの追求は行わない。しかし、電話を終えた後が心配なケースがある。市と連携したほうがよいと思うことがある。教育と福祉、健康増進の連携をどのようにはかるかということについて、具体策を挙げることはできるか。

【事務局】 基本施策8「自殺未遂者の再度の企図を防ぐ」に関連する事業として、No83「自殺未遂者への支援体制強化に向けた取組」を挙げている。学校等とともに、その方のしんどさの背景を理解し、どのようなサポート体制が必要かについて考えるケース会議を個別に開催している。自殺未遂された方の支援において、事例としては若い方が多く、学校だけでなく、子どもの安全や権利を守るという視点で、家庭児童相談室が関わることが多い。そういった福祉分野と健康部門、学校や教育委員会が連携しながらケース理解をして支援に当たっている。

【副委員長】 不登校が大きな問題だが実態は見えてきているのか。

【事務局】 学校での居場所が難しい子どもを把握し共有していると聞く。学校以外で、本人が安心して過ごせる居場所、時間を増やす取り組みが広がっており、そういった居場所がいくつかあると聞く。

【副委員長】 居場所にも行けず、結果的に独りぼっちになり、自殺に至るというケースを聞いたことがある。中学校が一番難しいのではないかと思う。人と人との繋がりがなかなか持てない子どもたちが気になるところであり、質問をさせていただいた。実態が見えにくいところだと思う。

【委員長】 不登校の親の会に、親が参加されている方も結構おられる。

では、基本施策5「女性の自殺対策を推進する」について意見等あるか。産後うつは大きな問題。周産期における事故より自殺のほうが圧倒的に多い。滋賀県でも精神科と産婦人科が協力し、産後ケアをするようになっている。No73「産婦健康診査費用助成」とNo74「産後ケア事業」のように、産婦への助成があり、色々助かる面もあるが、そういう問題はあある。

次に基本施策6「高齢者の自殺対策を推進する」について、意見等あるか。

【副委員長】 草津駅周辺はマンションが多い。高齢の夫婦が一戸建てを売り、マンションに移り住むケースが多い。夫婦のうち、どちらかが亡くなり、独居となるケースも多い。大路区は独居率が14学区の中で一番多い。マンションの中で何をしているかがわからない。民生委員にはフォローしていただいているが、つながりがなかなか持てず、深刻な問題になっている。

【委員長】 基本施策7「生活困窮者の自殺対策を推進する」と基本施策8「自殺未遂者の再度の企図を防ぐ」について、意見等あるか。

【委員】 当院は精神科がなく、適切に精神科や心療内科につなぐ役割が大きい。湖南いのちサポート相談事業は把握しており、適切に関係機関に繋がりたいと思うが、難しさがある。精神疾患で弱っている方に対してのコミュニケーションは主治医も含めてケアのしにくさがあり、なかなか繋げることができないという葛藤が常にある。何度も繰り返す方もあり、どこかで誰かがSOSに気づけるように、試行錯誤するが、時間がかかったり、残念な結果になることもあるため、そのあたりはスタッフもメンタル的なダメージがある。

- 【委員長】評価指標に、「自傷行為による出動件数」の減少があるが、軽度の自傷行為をしている方については、医療で診て欲しいと求めている場合があり、うまく医療や支援に繋げることができると自殺者数の減少に繋がる。目標指標として挙げるのが適切かという問題があるが、どうか。
- 【事務局】本市では令和2年以降20名を超える方が自殺で亡くなられている状況があり、客観的に評価できる指標として挙げさせていただいたが、搬送され支援等に繋がる可能性を踏まえ、指標については再度検討してまいりたい。
- 【委員長】基本施策9「遺された人への支援を充実する」について意見等あるか。
- 【委員】凧の会は2006年から活動し、毎月1回、自死で大切な方を亡くされた方の「分かち合い」を開催している。「分かち合い」に来られた経緯について、印象としては、ネットが一番多く、医療機関や市、保健所からの紹介が結構ある。家族を亡くされた後、色々な手続きがある。草津市における横の連携で紹介いただけると、支援に繋がりがやすいかと思う。コロナ前は保健所と連携し、年2回出張で「分かち合い」を開催していた。周知の機会であるとともに、スタッフとしても保健師と接する機会で、凧の会を知っていただく貴重な機会でもあった。できれば再開したいと思っている。
- 【委員長】最後に基本施策10「自殺予防を支える相談・支援を充実する」と基本施策11「庁内・地域における連携を強化し自殺対策をすすめる」について、プラットフォーム等により、どこに繋がればよいか等の情報へのアクセスができることは大事なことである。もう1つは「自殺対策推進会議、自殺対策関係課会議の開催回数：年1回以上」が評価指標にあがっており、これも大変良いこと。何か意見等あるか。
- 【委員】いのちの電話では、ホームページを開設しているが、毎月更新したり、新しく情報発信するには、人手不足である。市のホームページにリンクを張ることができれば、アクセスしやすいが難しいか。
- 【事務局】現在、厚労省関連のリンクについては掲載させていただいている。この件については、担当部署とも相談し、お返事したい。

3. その他

次回会議の開催日程について、事務局より説明

閉会

以上